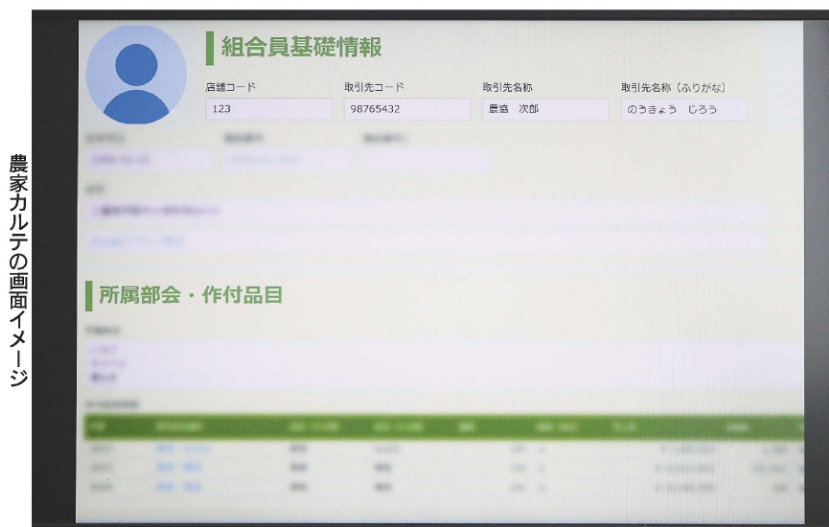


経営改善へ「農家カルテ」

三重・JA伊勢が作成



農家カルテの画面イメージ

生産状況、職員による指導履歴… クラウド上で一括管理

【三重・伊勢】JA伊勢は、生産者の生産状況や職員による指導履歴などをクラウド上で一括管理・閲覧できる「農家カルテ」を作成している。誰が見ても一目で生産状況などが把握でき、生産者の経営改善の提案につながられる。農業所得の向上に加え、営農担当職員の経営指導の指導力強化にもつなげていく。

カルテを作成するのは、生産者、肥育頭数などを超える生産者、品目別の栽培面積や販売高、平均単価などの情報を登録する。

今年4月からカルテ作成を始めて、営農担当部署と協議・調整しながらIT・DX対策課の職員が内製した。生産者の情報は職員が聞き取り、随時システムに入力する。

同課が昨年に構築した農家訪問記録簿も農家カルテとリンクさせ、生産状況や要望などを可視化する。職員はカルテを活用し、生産者ごとに農業所得の変動原因を把握・分析し、次年度以降の経営改善を提案する。

JA営農部の喜且光雄部長は「職員が経営指導を行い、生産者の苦手とする分野をカバーし、農業所得の向上につなげたい」と話す。

本年度は、栽培面積や販売高などをカルテに登録して経営分析に活用する。細やかな経営指導のため、今後は、資材費などの生産コストの項目の追加や、カルテの改良も検討していく。